

は8月に会津若松に侵攻、白虎隊士中二番隊のうち16人が同月23日、飯盛山で自刃した。白虎隊は忠君愛國の雄といわれるが、飯沼家では話題にするこゝさえ禁忌とされ

た。朝敵呼ばわりへの抗議同じ技術者の道に進み、NECで研究所長を務めた私は退職後、米ぬかの会社を興した。苦難の連続で、右耳が聞こえなくなった。私が生まれ

る12年前、昭和6年(1931年)に70代後半で亡くなった貞吉じいさんの声が夢の中で聞こえた。何をよくよして

るに比べて何ほどかかると切った。貞吉の人生を真剣に追跡し始めたのは7年ほど前からだ。貞吉にはふたりの男子があった。長男一雄は天折、次男一精の三男が私

である。調べ始めると一精の長男宅に残された貞吉の遺品から自筆文書が見つかった。「白虎隊

類末略記」と題された20ページの文書には「武士の本分を明らかにする」と記

# 白虎隊生き残りの真実

◇自刃失敗の後、仇敵・長州で庇護受け文明開化に尽力◇

飯沼 一元

朝廷に至誠を誓う会津藩は薩摩藩、長州藩を中核とする官軍から幕府につく仇敵とみなされ、討伐の憂き目に遭う。慶応4年(1868年)3月、会津で組織されたのが16、17歳の少年から成る白虎隊だ。



飯沼貞吉の肖像画

15歳だった貞吉は年齢を偽り、これに志願。官軍

は恥辱を避け、朝敵呼ばわりされた理不尽への抗議をこめて自刃したのではなかったか。

この記録によれば、飯盛山へ登った一隊は炎に包まれた城下をみる。勇猛な野村駒四郎が敵軍突入と玉砕を唱えたが、英人との井深茂太郎が異を唱

え、貞吉は刀をのどに突き立てたが、切っ先が後ろに出ない。岩に柄を当て、全身の体重をかけた

焼き小屋に運ばれ、一命をとりとめたが、これからの汚名につながる。私は祖父が晩年をすごした仙台の家で生まれた



飯沼一元

ちない、入城を目指すべきた。「甲怒り、乙罵り、激論以てこれ争う」

隊長代行の篠田機三郎が議論をまとめた。もうこの人数では突入も入城も難しい。敵の縄にかか

って先をのどの奥まで押しこんだ。

たというお涙ちょうだいの通説にかなて疑いを抱いていたが、やはり白虎

隊は恥辱を避け、朝敵呼ばわりされた理不尽への抗議をこめて自刃したのではなかったか。

この記録によれば、飯盛山へ登った一隊は炎に包まれた城下をみる。勇猛な野村駒四郎が敵軍突入と玉砕を唱えたが、英人との井深茂太郎が異を唱

え、貞吉は刀をのどに突き立てたが、切っ先が後ろに出ない。岩に柄を当て、全身の体重をかけた

焼き小屋に運ばれ、一命をとりとめたが、これからの汚名につながる。私は祖父が晩年をすごした仙台の家で生まれた

孫の姉にあたる女性から「貞吉を預かっている」との密書を会津の母におく

た。朝敵呼ばわりへの抗議同じ技術者の道に進み、NECで研究所長を務めた私は退職後、米ぬかの会社を興した。苦難の連続で、右耳が聞こえ

る12年前、昭和6年(1931年)に70代後半で亡くなった貞吉じいさんの声

が夢の中で聞こえた。何をよくよして

るに比べて何ほどかかると切った。貞吉の人生を真剣に追跡し始めたのは7年

ほど前からだ。貞吉にはふたりの男子があった。長男一雄は天折、次男一精の三男が私

である。調べ始めると一精の長男宅に残された貞吉の遺品から自筆文書が見つ

かった。「白虎隊類末略記」と題された20ページの文書には「武士の本分を

明らかにする」と記

された。落城と誤認して自刃したというお涙ちょうだいの通説にかなて疑いを抱

いていたが、やはり白虎隊は恥辱を避け、朝敵呼ばわりされた理

不尽への抗議をこめて自刃したのではなかったか。

この記録によれば、飯盛山へ登った一隊は炎に包まれた城下をみる。勇

猛な野村駒四郎が敵軍突入と玉砕を唱えたが、英人との井深茂太郎が異

を唱え、貞吉は刀をのどに突き立てたが、切っ先が後ろに出ない。岩に柄

をかけた

た。焼き小屋に運ばれ、一命をとりとめたが、これからの汚名につながる。

私は祖父が晩年をすごした仙台の家で生まれた

孫の姉にあたる女性から「貞吉を預かっている」との密書を会津の母にお

く「このことは誰にも言ってはいけない」と聞かされて育った。重

い口を開いてくれたのだ。話に矛盾がないことも

わかった。会津ではデマとみられかねないが、飯沼、檜崎両家が秘中の秘

とした長州滞在説はやはり事実であろう。

電気敷設にまい進身内のえこひいきと言

われるのを承知で「白虎隊士飯沼貞吉の回生」という本を自費出版したの

は、生き残って社会のために生きようと努めた祖父の思いを伝えたかった

からだ。貞吉は頼三に庇護され、長州で西洋の電

信技術を知った。新政府の工部省に入り、電信の敷設にまい進した。

死んだ藩士の思いを胸に新時代を生きぬいた思

いは、いかばかりだった

だろうか。(いいぬま・かずも)ライステック社長

死んだ藩士の思いを胸に新時代を生きぬいた思

いは、いかばかりだった

だろうか。(いいぬま・かずも)ライステック社長

死んだ藩士の思いを胸に新時代を生きぬいた思

いは、いかばかりだった